

育児環境と喫煙に関する検討

(分担研究：新生児・乳児の在宅療法と生活管理をめぐる保健指導に関する研究)

研究協力者 山内芳忠

要約：喫煙の育児環境と新生児・乳児への影響を調べる目的で母親の喫煙の頻度と受動喫煙の有無を血中の一酸化炭素ヘモグロビン濃度を測定することで評価、モニター出来るか否かを検討した。その結果母親の喫煙の頻度は約5%であり一般女性のそれに比して低かった。又、受動喫煙の可能性は示唆されたが有意差には至らなかった。一酸化炭素ヘモグロビン濃度単独では十分に評価出来ず今後さらに検討を要す。

見出し語：喫煙、受動喫煙、妊婦、母親、一酸化炭素ヘモグロビン

母親の喫煙が胎児・新生児に及ぼす影響については良く知られている。家族内の喫煙者の有無も新生児・乳児の呼吸器疾患や入院歴に影響するといわれる。そこで家族内喫煙の新生児・乳児への影響を調べるため今回はまず母親の喫煙頻度と受動喫煙の有無を血中の一酸化炭素ヘモグロビン濃度にて評価、モニター出来るか否かを妊婦と母親について初歩的検討を行なったので報告する。

研究対象と研究方法：妊婦94名と育児中の母親48名について夫の喫煙の有無、1日当りの喫煙本数と妊婦、母親の血中一酸化炭素ヘモグロビン濃度との関係について検討した。血中の一酸化炭素ヘモグロビン濃度はCO-OXIMETER 482(IL)にて測定した。

結果：夫妻が非喫煙者である場合の妊婦での

一酸化炭素ヘモグロビン濃度は $1.35 \pm 0.42\%$ (N=40)であり、夫が喫煙者の場合は妊婦の一酸化炭素ヘモグロビン濃度 $1.48 \pm 0.58\%$ とわずかに上昇していたが有意差は認められなかった。妊婦が喫煙者の場合では一酸化炭素ヘモグロビン濃度は $2.71 \pm 1.16\%$ (N=5)と有意に高値を示した(P<0.01)(表1)。

母親の血中一酸化炭素ヘモグロビン濃度は夫妻が非喫煙者の場合で $1.38 \pm 0.34\%$ (N=19)に対して夫が喫煙者の場合では $1.41 \pm 0.48\%$ (N=27)と母親の一酸化炭素ヘモグロビン濃度はわずかに上昇していたが有意差は認められなかった。しかし母親本人が喫煙者の場合では、血中一酸化炭素ヘモグロビン濃度 $2.60 \pm 0.50\%$ (N=2)と有意に増加していた(P<0.05)(表2)。

考察：今回の初歩的観察では、受動喫煙の有

無を血中の一酸化炭素ヘモグロビン濃度にて十分に評価することが出来なかった。一酸化炭素ヘモグロビン濃度は種々の状況で影響されるの

で今後は尿中のコチニン、ニコチン等との同時測定を行いさらに検討を加えたい。

表1 During Pregnancy

Carboxyhemoglobin levels in blood			
Husband : Non - smoker			
Pregnant Woman : Non - smoker	1.35 ± 0.42%	N = 40	
NS			
Husband : smoker			
Pregnant Woman : Non - smoker	1.48 ± 0.58%	N = 49	
Pregnant Woman : Non - smoker	2.71 ± 1.16%	N = 5	P < 0.01

表2 Postpartum

Carboxyhemoglobin levels in blood			
Husband : Non - smoker			
Postpartum Woman : Non - smoker	1.38 ± 0.34%	N = 19	
NS			
Husband : smoker			
Postpartum Woman : Non - smoker	1.41 ± 0.48%	N = 27	
Postpartum Woman : smoker	2.60 ± 0.50%	N = 2	P < 0.05



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:喫煙の育児環境と新生児・乳児への影響を調べる目的で母親の喫煙の頻度と受動喫煙の有無を血中の一酸化炭素ヘモグロビン濃度を測定することで評価、モニター出来るか否かを検討した。その結果母親の喫煙の頻度は約 5%であり一般女性のそれに比して低かった。又、受動喫煙の可能性は示唆されたが有意差には至らなかった。一酸化炭素ヘモグロビン濃度単独では十分に評価出来ず今後さらに検討を要す。